

(3) 全国学力・学習状況調査の結果とその分析

安芸太田町立戸河内小学校

1 調査の概況

調査の実施日 令和7年4月17日
調査対象学年 全国の6年生
調査内容 (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する調査

2 教科に関する調査の結果と考察

平均正答率(%)	国語	算数	理科
本 校	57	63	58
広島県	69	59	59
全 国	67.1	58.1	57.0



<国語>

- 条件に合わせて書く問題の内、1 問目はほとんどの児童が正答している。2 問目も、全国平均を上回っている。
- ちらしなどの文章構成について理解ができていない。
- △ 世代と時代の意味の違いが理解できておらず、語彙が不足している。
- △ 「暑い」を「熱い」と書く児童が半分で、同音異義語についての理解が不足している。

<算数>

- 全体的に正答率が高い。特に表やグラフの読み取りはできている。
- ⇒△ 読み取りはできているが比較をすることには課題が見られる。
- 正確に計算する力を身につけている。
- △ 簡単な間違いが目立った。
- △ 小数や分数の数の読み取り方に課題が見られる。
小数や分数になると、数の大きさが変換できていない児童が多い。
- △ 図形の定義で理解しているのではなく、形で認識している。
- △ 求め方を式や言葉を用いて説明する問いの誤答、未記入が目立った。
複数の情報がある中でどの情報を用いて説明すればよいのか難しい。
- ⇒ 問われている問題の理解、重要なポイントを押さえられていない。

<理科>

- どの問題においても無回答率が0%だった。

○基礎基本の知識についての回答率が高い（知識技能）

○エネルギー・生命の内容は全国を上回っている。

△完答を求められた問題は正答率0%（全、県：約10%）

△磁石の問題（中学年で学習した内容は忘れている？）

△「電磁石の強さを強くするには」という問題では「コイルの巻き数を多くする」ではなく授業で200回巻いた経験からなのか「200回」と回答していた。

△複数の資料、情報から比べて考えることが苦手な傾向がある。

△言葉で解答する問題は苦手（思判表に課題）な傾向がある。

3 生活習慣等に関する質問紙調査の結果から

○ 基本的な生活習慣を問う問いに対して9割以上が肯定的な回答をしている。

○ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」という問いに全員が肯定的な回答をしている。社会貢献に興味があり、周りの人々を思いやる気持ちを持っていることが伺える。

△ 「読書は好きですか」という問いにおいて多くが「好き」と回答しているが、読書の時間はばらつきがある。家に10冊も本がない児童もあり、家庭で読書をする機会が少ないことが伺える。

△ 「算数の勉強は得意ですか」「算数の勉強は好きですか」という問いにおいて肯定的な回答が少ない。

4 具体的な取り組み

「書く」指導の充実

- ① どのように書けたら「A」なのか、教師が事前に考えておき、ふりかえり等を書く際に、「この言葉を入れて書こう」「O行で書こう」など、条件を指定して書くことに慣れさせていく。
- ② 漢字学習をする際に、熟語や言葉の意味を丁寧に確認する。語彙力を高めるために、読書・新聞読解を行う。

「読む」指導の充実

- ① 何について書かれている文章か読み取りを行うために、文章中のキーワードを見つけたり、タイトルをつけたりするなどの活動を行う。
- ② 国語科では表現効果を考えさせながら読ませたり、表現効果を意識して、言葉と図を使った説明・推薦する文章を書いたりする活動を行う。
- ③ 印をつけながら読むなど、文章量が多い場合の「読み方」について指導する。

算数科において

- ① 全国学習調査の問題の形式が単元テストとは異なるので、この問題の形式に慣れる。
- ② 普段の授業の中で回答の仕方や求め方とその根拠を言語化する力を養っていく。
時間制限や字数制限を設けた回答する練習を行う。
- ③ 式⇔言葉どちらでも表現、説明することができるような練習問題を設定する。

理科において

- ① 授業の中で分かったことや気づいたことなどを言葉で表現させる活動を仕組む。
- ② 中学年での学習内容が忘れていることが多いため、遊びの中から学ぶ経験を積ませる。
- ③ ただ実験をするのではなく、実験をした後に学びを整理する時間を十分にとる。
- ④ 実物用意で思考の支援をする時間、あえて用意せず絵や文字から想像をさせる力をつける時間を意識的に調節する。

生活習慣に関する指導

- メディアコントロールウィークを活用し、自身の生活を見直させる。また個々への評価をしながら、学校だより、通信等による保護者への啓発も行う。
- 「家読」や図書委員会の取組を通して、家庭での読書普及に努める。
- メディアとのつきあい方に関する指導も行っていく。

